

全国大会出場おめでとう！

～全日本中学校陸上競技選手権大会～

大網中学校・増穂中学校の陸上部の選手たちが、千葉県大会において優秀な成績を収め、全国大会への出場が決定し、金坂市長へ喜びの声を届けてくれました。

◇全日本中学校陸上競技選手権大会（8月21日～24日大阪府）出場者 ※敬称略

▶大網中学校

〈共通200m男子〉山下 遥也（3年）

〈共通1,500m女子〉南 莉花（3年）

〈共通100mリレー男子〉

高城 将（3年）、山下 遥也（3年）、齋藤 拓巳アンドレイ（3年）、佐藤 聖也（3年）、今井 駿太郎（3年）、古山 航大（3年）

▶増穂中学校

〈共通3,000m男子〉田中 愛陸（3年）



◀大網中学校陸上部の皆さん（左から南さん、高城さん、齋藤さん、佐藤さん、右から古山さん、今井さん、山下さん）



▲増穂中学校陸上部 田中さん



Oamishirasato



News

市内の話題をお届けします

防災体制の充実で生活の安心を ～災害時応急対策業務の協定を締結～



地震や風水害等の災害時に市の管理する道路や河川、ライフラインの機能を確保し、応急的な対応を図ろうと8月1日、市は大網白里市災害対策協会と協定を締結しました。

今回の協定は、平成21年に当時の町建設業協会と締結した協定に、造園建設業組合、指定ガス工事店組合等を加えたもので、災害時の応急措置に当たり役割や対応方法をはじめ、必要機材や人材の確保に向けて、34の事業者が市との連携を強化。いつ発生するかわからない災害に備え、防災体制の充実を図りました。

調印式で金坂市長は、「協定を締結できることは市としても心強く、市民の皆さんにも安心を提供できる」とあいさつ。災害に強いまちづくりを一層強固なものとなりました。

地震や風水害等の災害時に市の管理する道路や河川、ライフラインの機能を確保し、応急的な対応を図ろうと8月1日、市は大網白里市災害対策協会と協定を締結しました。

今回の協定は、平成21年に当時の町建設業協会と締結した協定に、造園建設業組合、指定ガス工事店組合等を加えたもので、災害時の応急措置に当たり役割や対応方法をはじめ、必要機材や人材の確保に向けて、34の事業者が市との連携を強化。いつ発生するかわからない災害に備え、防災体制の充実を図りました。

新しいALT Smith Grant William (スミス・グラント・ウィリアム) 先生を紹介します！

大網白里市の皆さんへ

はじめまして、これからお世話になるスミス・グラント・ウィリアムと申します。アメリカのウィスコンシン州から千葉県に参りました。大網白里市で働かせていただけることにとても感謝し、心の底から楽しみにしていました。

私は日本文学とゴルフやテニスなどのスポーツに興味をもっています。

大網白里市の子どもたちに英語を教え、交流していくなかで、子どもたちの成長を支えるとともに、大網白里市の皆さんと仲良く関わっていきたいと思います。頑張ります。

よろしくお願いします。



◆ 市内初！「ちばGAP」認証 ◆

7月22日に開催された、ちばGAP制度認証審査会において、今関喜明氏(富田)が「ちばGAP制度認証対象者」に選ばれました。7月30日に正式に認証され、市では初めての認証となります。

「ちばGAP」とは、農産物の安全を確保するため、農作業などの記録を取ること、環境の保全・労働の安全のために点検を行うことなどの取り組みを確認・評価し、より良い農業を実現する活動です。これにより農作業の効率化やコスト削減など、農業経営の改善が期待されます。今関氏は地元の農業委員も務めており、地域の中心的な農業の担い手として、農業推進に積極的に活動されています。



▲今関 喜明氏

● 平和への願いを込めて ●

～子どもたちがピース・キャンドルを作成～



▲子どもたちの思いとともに輝くキャンドル

8月2日、市内の子どもたちがピース・キャンドルづくりに参加しました。戦争の悲惨さと平和の尊さを、読み聞かせや同日開催の「原爆被爆と戦時下の郷土資料展」で学び、平和への願いを込めてキャンドルを作成。思いの絵やメッセージを書き込んだ作品が出来上がりました。

子どもたちの力作は、8月2日から4日に開催された「原爆被爆と戦時下の郷土資料展」で展示され、訪れる来場者を優しい灯かりで迎えました。



▲原爆や戦争に関する資料を見学

身近なもの使って救助を待つ～こども着衣水泳体験教室～



▲ランドセルを使って上手に浮く児童

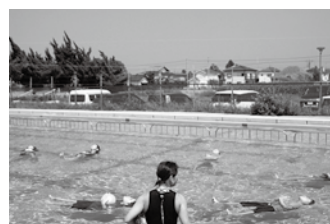
いざというときに海や川で溺れずに「浮いて待つ」方法を体験しようと、「海岸地域の振興を進める会」主催の着衣水泳体験教室が8月2日に白里小学校で開催されました。

今年で4回目となる教室には、20人以上の児童が参加。

「声を出さず、手を動かさず、体をくの字に曲げない」など、浮き方のコツを教わった児童は、4チームに分かれて普段着のままプールの中へ。

ペットボトルやランドセルなど、身近なものをゆっくりと体に密着させ、浮き方を反復練習すると、最後には3分間浮き続けられるほど上達した児童もいました。

講師は「この訓練で救助の可能性は高くなるが、水遊びは必ず保護者と一緒に」と講評し、子どもの水難事故ゼロへの願いを込めて教室を締めくくりました。



▲得意な方法で3分間浮く練習